

大城ひかるのベトナム通信



通信

-35-

シンチャオ
(Xin chào)
おきなわ

今年も10月下旬から2週間ほど一時帰国しました。昨年は沖縄への国際便が少なかつたため東京経由で戻ったのですが、今年は韓国のLCCがたくさん再開してくれたおかげで、昨年の3分の1の料金で帰ることができました。



重い荷物を荷物運んでくれる仁川空港の「エアポーター」(筆者撮影)

今年も10月下旬から2週間ほど一時帰国しました。昨年は沖縄への国際便が少なかつたため東京経由で戻ったのですが、今年は韓国のLCCがたくさん再開してくれたおかげで、昨年の3分の1の料金で帰ることができました。今回の旅で一番驚いたのがロボットの普及です。経路地の仁川(インチョン)空港では、タクシーパネルに入力すると行きたいところに荷物を運んでくれる「エアポーター」があらゆる場所に配置され、楽しそうに操作している親子連れを見かけました。沖縄でもいくつかのレストランで、お片付けロボットや配膳ロボットを体験しました。どちらもまだ最終的には人が乗せたり下ろしたりしなければならいのですが、それでも重い食器や料理を運ばなくて済み、省人化、省力化にはずいぶん役立っているのだと感じました。セルフレジは生活にすっかり溶け込んでいて、ポストコロナでいろんなことが動き出している印象を受けました。

新たな思い胸に再スタートへ

一方、人手不足が進んでいる様子もうかがえます。コンビニの店員は外国人に置き換わっていましたし、いつも行く韓国料理屋や海鮮料理屋でもベトナム人の店員に出会いました。タクシーやバスの運転手は全国的に不足しているようで、沖縄でも時間帯によってはなかなか拾えなくて困りました。

確か10年ほど前に、「AIの普及でなくなる仕事」というのがマスコミをにぎわしたかと思えます。繰り返す単純作業やパターンの仕事はAIの得意な分野だそうで、リストにはスパーやコンビニの店員、タクシーや電車の運転手、ホテル客室係などがあがっていました。それが現在は人手不足であることを

考えてみると、技術的な問題だけでなく日本企業が提供するサービスの複雑さを表しているのかもしれない。

ベトナムではかつての私の仕事だったライターもありました。当時自分の仕事がとてもクリエイティブだと考えていた私は、腑に落ちなかったのですが、Chat GPTが短時間で作る精度の高い文章を体験してみると、残念ながら納得。報道番組でAIがTVニュースを読み上げているのを見て、日本人の生活にAIが身近になっていくことを知りました。ベトナムのように働き手が多く、機械化が進んでいない国から見ると、「日本は先進国だ」と改めて感じた次第です。

学校の先生はリスト外だったので、日本語教師はどうでしょうか。YouTubeには日本語の学習コンテンツがふれていますし、外国人とチャットできるアプリも数多くあり、世界中どこにいても自学自習が可能な環境です。そんな時代に日本語ネイティブ教師として海外で教えることに求められることは何なのか——今回の里帰りは私に新しい課題を与えてくれました。簡単には見つからないかもしれない、その答えを探しに4年前より少し成長した自分を感じながら私は再びベトナムに旅立ったのでした。心とスーツケースにたくさん土産を詰め込んで。

昨年11月からお届けしてきたベトナム通信は、今回を持ちまして最終回となります。1年間に購読いただき、誠にありがとうございました。また新しい話題を引っ提げ戻ってまいりますので、お待ちいただけます。お先にはクリスマス、そしてよいお年を。(おわり)